冬の日

たら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
冬の日

【Ｎコード】
Ｎ２０３１ＢＡ

【作者名】
たら

【あらすじ】
毎年やってくる冬。あいつも家にやってきた。　‡そんな二人がほのぼのしてる話

「水人［みずと］君水人君！」
名前を呼ばれて振り向こうとしたらいきなりドサッと衝撃を受けた。
「あったかーいなー」
俺の首に手を回して抱きついたままゆらゆら揺れている。重いとか言ったら殴られんのかな。まぁそれほどじゃないからいいんだけど。
「今日も外寒いんだよ」
「そうなんですか。じゃあなんでコートとか着ないで来たのかな。風邪ひきたいの？」
「家近いし大丈夫かなって思ったの」
「いくら近くてもさ。今は冬なんだよ」
「冬の楽しい事終わっちゃったね。クリスマスもお正月も」
俺の話は聞く気ゼロですか。そうですか。ちょっと悲しいよ。
「水人君の家今年はコタツ出さないの？」いや、言えないって。コタツ出したらお前近くに来ないでコタツに潜りっぱなしになるじゃん。それが嫌で出してないとか言わないからね。絶対。
「暖房あるからいいだろ。節電だよ。俺はエコなの」
言い訳だけしてみる。
「うーん…暖房つけた方が地球には良くない気が…どうなのかな…わかんないや」
「気にしない気にしない」
「こうしてるとあったかい。ぎゅー」
そんな事を言って回している腕の力を強めてきた。密着度上昇。あぁ、もう出さないわ。コタツ出さないわ。俺の手にはまだ読んでいない雑誌があるけどさっきから全く頭に入ってこない。その辺に鏡とかなくて良かったと思う。
「な、なんか食べるか？」

とりあえず気を紛らわそうと声をかけたが返事がない。…ただの…何でもない。

「んー…んぅ…」

スースーと間近で呼吸音が聞こえる。寝てんのかよ。ってかこの体制で寝ちゃったの？ど…どうしよう…俺頑張る。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2031ba/

冬の日

2012年1月5日01時47分発行